事例No.	1877
公表年度	R4
団体の属性	指定都市
団体名	神奈川県横浜市

事例区分	公営企業

タグ	・交通事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	DX

事例内容・タイトル

2次元バーコードによるバス接近情報・混雑状況の確認サービス

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【神奈川県横浜市】
２次元コードによるバス接近情報・混雑状況の確認サービス

DX　交通事業

神奈川県横浜市交通局総務部システム推進課

● 取組の概要

老朽化したバス接近表示機に代わって、バス停に掲出した2次元コードにより、バスの接近・混雑状況が手軽に分かるサービスの提供を開始した。

◆総事業費 全体事業費　8,400千円
内訳　接近情報サイト構築費　1,300千円
GTFS※対応システム構築費　7,100千円

※　バス事業者が利用者に経路情報を提供するための共通データフォーマット。

◆背景

- 従来のバス接近表示機は、その多くが製造から10～17年を経過し、保守部品の確保が不可能となっていた。また、新たな設置要望も多く寄せられたが、設置費、維持費用が高額であり、電力・通信確保の課題や設置できる場所にも制限があるため、更なる設置が困難となっていた。

◆具体的内容

- 全てのバス停時刻表に掲出している2次元コードから誰でも簡単にバスの接近・混雑情報を得ることができるシステムを構築した。
- 訪日外国人や観光客の利用を促進するため、標準的なバス情報フォーマットであるGTFSデータとしてオープンデータ化し、Googleなどのコンテンツプロバイダに活用させることとした。

◆効果

- 設置費用が低額であり、設置場所に制限のない2次元コードでの情報提供を代替サービスとすることにより、接近表示機の稼働を停止することができたため、老朽化による機器更新費用と通信費用が削減された（▲約1億円）。
- 既に多言語対応しているGoogleMapsへ情報を提供することで、交通局が独自に多言語対応を行う負担を軽減した。

● 取組のポイント

- バス停留所において既設の2次元コードを活用することで、新たな2次元コードの作成費用を削減した。
- 運行管理で使用している乗降客数をリアルタイムな混雑情報に変換し、利用者に提供することで、新型コロナウイルス感染症対策として3密の回避にも効果があった。
- 訪日外国人や観光客が日常的に利用しているサイトでの閲覧を可能とした。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　3,772,029人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　438km²（令和4年1月1日時点）
- 営業路線（自動車）　516.3km（令和3年度決算）

2次元コード利用イメージ



● 取組のスケジュール

- 平成25年　停留所への2次元バーコードの掲出
- 令和元年　混雑情報の提供開始
- 令和2年　GTFSデータの公開
- 令和3年　GoogleMapsでのバス情報の提供開始

● 今後の展望

- 発出できる情報を精査し、今後の提供拡大を目指す。
- バスだけではなく、地下鉄データのオープンデータ公開も推進する。